

■ 全国縦断仕事おこしシンポジウム ■

# 「まちづくり」「仕事おこし」を考える市民のつどい in 函館



日時：12月9日(日)午前9時30分～

会場：北海道教育大学函館校

内容：

1. 開会
2. 実行委員長挨拶 丸藤競さん
3. 基調講演 菅野正純さん  
(日本労協連理事長)
4. ゴスペル P.S. ソウルツリー
5. リレートーク
6. まとめ
7. 閉会

## 「仕事おこし」ができるまちを目指して

丸藤 競 (まちづくり団体 活力ユニット代表)



4年前の夏、函館のコミュニティー放送局FMいるかの人気パーソナリティーが、若者向けにひとつの提案を新聞に載せました。「函館を、もっと楽しくしよう。まちのことを自分達で考えてみよう。みんなで動きだせば、きっと凄いことができるはずだよ。」

私は、その声に集まった30代までの男女で結成した活力ユニットという団体の代表をしています。これまで多くのイベントの主催や共催、協力などをしてきました。また様々な人との出会いがありました。フォーラムや勉強会等にも積極的に参加してきました。

そうした中で最近、私の活動の大きな転機になる出来事がふたつありました。

ひとつは、市内の大学生と交流する機会が多くなったことです。これは今年の夏、衰退著しい函館駅前大門地区商店街の復活作戦を名乗り出た大学生有志による初めての合同学園祭(大門祭～ガクセイレポリビューション21～)に、私が協力したことが切っ掛けでした。学生と様々な場面で交流していく中で、いかに厳しい就職難に直面しているか。そしてそのような中でも必死に自己実現を求めている

## 全国縦断仕事おこしシンポジウム

うとしている姿と常に接するようになりました。今の学生はバブル時代に我を見失った私の頃とは違い、心の充実感を第一義に考える人が多くなっていると実感するようになりました。

ふたつ目は、NPO推進道南会議に事務局として参加し、機関紙『なんど～らNPO』の編集長を行うようになったことです。機関紙の編集に携わっていく中で、今まで以上に自分が行っている活動の意味を考えるようになりました。はたしてこれまでの活動が、まちづくりにつながってきたのだろうか。その時限りの楽しさや自己満足に終わるのではなく、まちに対して何かを残しているのだろうか。また、行政との関係や法律的な問題について遅ればせながら勉強を始めた理由もここにあります。

今回の、「まちづくり」「仕事おこし」市民のつどいの話が私にきたのはそのような背景の中でした。準備会から出席してはいましたが、多くの目標としたい諸先輩の皆様を差し置いて実行委員会の代表に指名されたことに、はじめは戸惑いと不安がありました。しかしシンポジウムの内容を自分なりに理解していく中で、私が代表に指名された意味を考え、どのようにすれば最大限の応えを出せるのかを考えるようにしました。

先にも書いたように、実行委員会の中でおそらく私が最も学生と近い場所にいます。

今回のテーマである「まちづくり」や特に「仕事おこし」は、学生にとっても大きく現実的な問題になっています。そこで実行委員会や当日の運営に学生が参加するようにしました。大きな「！」マークの横に、「新しい

働き方みつかる。」というコピーが印象的だったチラシは学生がデザインしたもので、市内の各大学や若者の集まる場所に置かれました。総合司会や進行役等、当日は3大学の学生がスタッフとして参加しました。周知期間が短かったにもかかわらず、来場者の中にも学生の顔が多く見られました。

また市民活動の代表として出演したゴスペル・チームの素晴らしい歌声も、皆様に喜んでいただけました。

「仕事おこし」という考え方には多くの可能性が込められていると思います。

近い将来、ごく普通のこととして「仕事おこし」が多くの人のあいだで話されるようになることを目標に、今後とも私らしい活動を続けていきたいと考えています。

最後になりましたが、当日、休日のため暖房が入らないという寒い会場にもかかわらず最後まで参加いただきました多くの来場者の皆様に、心よりお礼を申し上げます。有り難うございました。

